

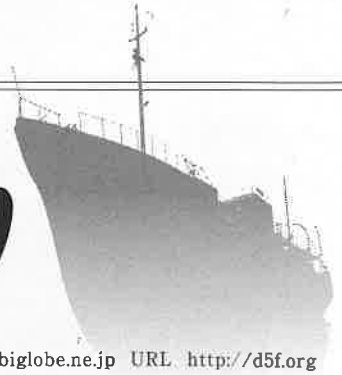
2011.01.01
No.361

(1・2月号)

福竜丸だより

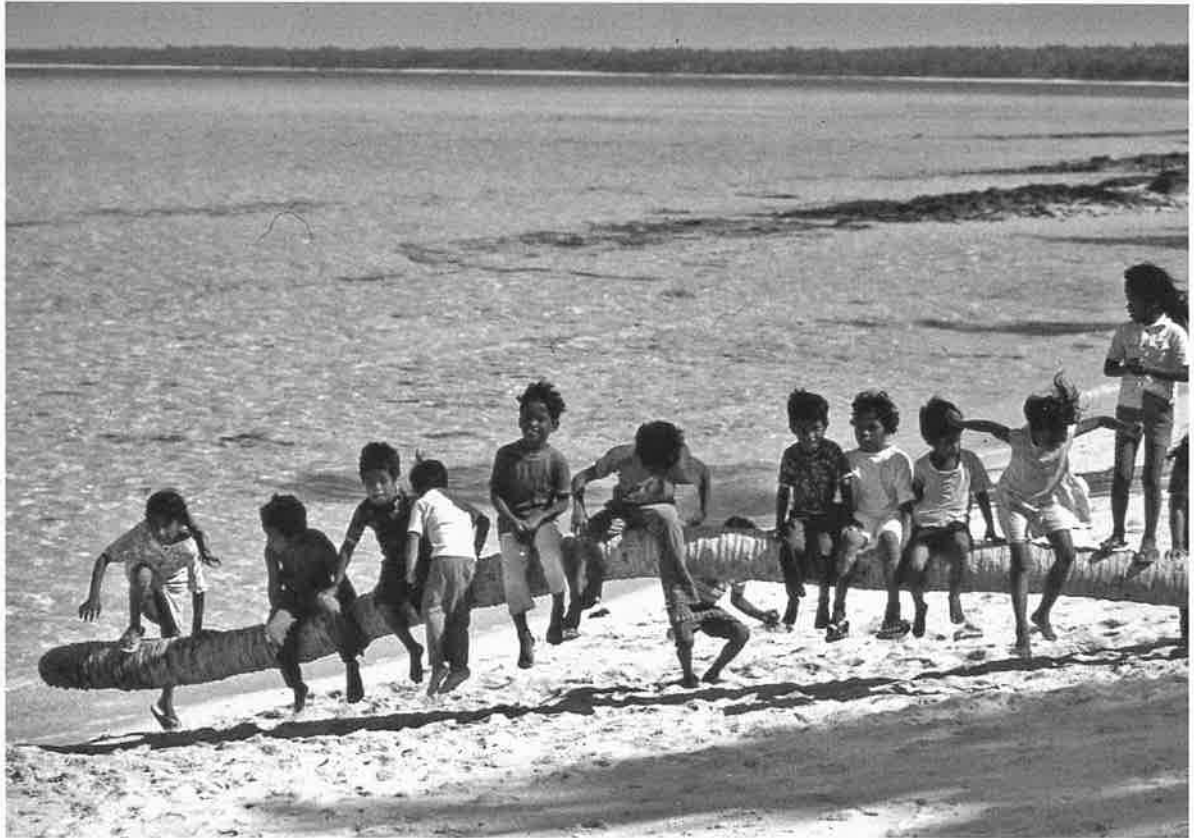
発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



マーシャルの子どもたち

世界遺産となったビキニ環礁をはじめロンゲラップ、ウトリックなどマーシャル諸島の人びとの苦悩はつくづく。そんな中でも子どもたちは屈託のない表情を見せる。写真 豊崎博光



希望をひらく新たな航海を

公益財団法人第五福竜丸平和協会

代表理事 川崎昭一郎

明けましておめでとうござ
います。

新春の第五福竜丸展示館では、昨年から継続開催中の特別展「イケナイ世界遺産 ビキニ環礁」が皆様のご来館をお待ちしています。

核兵器廃絶へ向けて種々の新しい意欲的な行動が生み出されようとしている本年、反核運動の原点である、ビキニ水爆実験にもう一度立ち返ることが大切です。

ビキニの「死の灰」が地球規模に広がっていたことを示すデータ資料、アメリカ公文書が最近見つかりました。この資料の検討を含め、ビキニ環礁の自然と人びとの健康に重大な影響をもたらしたビキニ水爆実験の全体像を総合的、学際的に明らかにするための研究を進めることが今日なお重要であると考えます。

第五福竜丸平和協会には専門委員会が設けられています

ので、定期的に研究会を開催し、必要に応じて対外的に研究会発表会や成果の刊行を行いたいと思います。

この研究活動に大学院学生を始め若い研究者を招き、育てていくことが重要です。

このことは、公益性を標榜する私ども第五福竜丸平和協会の社会的責任であります。

被災船第五福竜丸の船体は、ビキニ環礁とともに水爆実験の証しであり、それを長く保存するために万全の策を講ずることが求められます。「船体等保存検討委員会」の活動も本格化していかなくてはなりません。

地味ではありますが、本年は研究活動と若手活動家の養成を着実に進めていく元年にしたいものです。

新年に当たり皆様方の引き続きご支援、ご鞭撻をお願いするとともに、各位のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げます。

ビキニ環礁の世界遺産登録について

—— 専門家の立場から ——

筑波大学大学院教授 世界遺産専攻

稲葉 信子

記憶を伝える「負の遺産」

ビキニ環礁が、原爆ドームに続いて、核の問題に関わる遺産として世界遺産リストに登録された。

私は日本が世界遺産条約を批准した一九九二年から、条約の仕事に関係している。マシーナル諸島がビキニ環礁を世界遺産に申請したとの情報を得て、原爆ドームの登録にも関わった経験から、その審



96年12月世界遺産となった原爆ドーム

査の経緯には注目してきた。

人類史上の重要な出来事を伝える遺産のうち、今後こうすることがあつてはならない経験を伝える遺産を、日本では「負の遺産」と呼ぶ。

日本だけの呼び方で、ユネスコなどでこうした言葉が使われているわけではないが、しかし伝えたいことが一言で分かつて、すでに一般に定着している。私も「負の遺産」という言葉は使わないものの、そうした遺産だけを並べて話をするにはある。そこから語るべきことはたくさんあるからである。

いずれにしても、そのような記憶を伝える世界遺産としては、どのようなものがあるだろうか。奴隷制の象徴としてのセネガルのゴレ島やガーナの城砦群、人種隔離政策の象徴としての南アフリカのロベン島、アウシュビッツ強制

収容所、そして広島原爆ドームなどが思いつく。いずれも人の生命と財産の大きな犠牲を背負った遺産である。

デリケートな「基準Ⅵ」

世界遺産に選ばれるためには、一〇ある基準のうちの一つ以上を満たさなければならぬ。そのうち、先に列挙した五つの遺産に共通して適用されているのが、六番目の基準、すなわち顕著な普遍的価値を有する出来事、思想、などに関する遺産の評価基準である。

ただし、こうした無形の事象についての客観的な判断がきわめて難しいことは、読者の方々にも容易に想像していただけるだろう。何よりもまず政治に利用されるようなことがあつてならないし、また安易に使えば数が増えすぎて困ることになる。特に現在も進行している民族紛争、宗教紛争に関係するとなると、それは避けるべきだという常識が働く。戦争遺産も同様であろう。近い時代の戦争になればなるほど評価は難しい。原爆ドームの申請準備が進



【ビキニ環礁 水爆ブラボーを据え付けた台座】
環礁の一つナム島の沖合のさんご礁の浅瀬にコンクリートで台を作り50メートルの鉄塔を建て、その上に水爆を設置した。米軍資料より、提供・豊崎博光

んでいた頃、アウシュビッツの登録に関わったことのあるポーランドの専門家を呼んで、第二次世界大戦との関係について質問したことがあった。彼の答えはきわめて明快であった。すなわち「アウシュビッツは戦争とは関係がない。ある人間の集団が、他の集団に対してどれくらいひどいことができるかの人間の残酷な側面を示す証拠である」と。

原爆ドームの正式名称は

「広島ピースメモリアル」であり、広島市民の半世紀に及ぶ平和運動が評価の対象となっている。戦争の言葉はどこにもない。

基準Ⅵにかかる様々な問題を避けるため、結果として、この基準に限って条件が設けられている。条件とは、単独ではなく、できうる限り他の基準と併用することが望ましいというものである。

そして、そうした条件にも
(3めん上につづく)



【ブラボ一起爆壕】 撮影：豊崎博光

ビキニ環礁世界遺産登録の理由のひとつは「水爆実験による巨大なクレーターや観測壕などの核実験の証拠が目に見える形で残されている」ことがあげられている

かわらず、先に名前を挙げた遺産は、ロベン島を除いて、この基準VIだけで世界遺産に登録されている。それだけの意味がある遺産ということである。

ロベン島についても、基準VIだけで登録する道が探られたが、当時の規則は基準VIの単独適用を禁止していたので、断念したものである。

この世界遺産登録に際して、この基準VIについてどのような議論が行われるか、そこに私は注目していたのである。特に、マーシャル諸島政府が、核の問題に関わって基準VIの単独適用を望んでいるとしたら、原爆ドームなどとの関係も踏まえてさらなる議論が必要となると考えていた。核兵器の廃絶を願うものであれ、あるいは核利用の技術的

な歴史を問うものであれ、ひとつの国の核実験場だけではこれらの全体を語ることはできないからである。申請の内容が明らかになつて分かったことは、マーシャル諸島は、ビキニ環礁を基準VIだけではなく、基準IVと併用で申請したことである。基準IVは、建築や科学技術、景観などの類型で、歴史上の重要な段階を物語る遺産を評価する基準である。

ビキニ環礁には、実験施設、実験の結果できたクレーター、水中の沈んだ戦艦など、

冷戦時代に大国の核実験場にされていたという事実は、太平洋諸島の人々の地域のアイデンティティを構成する重要な要素となっている。それはこの地域の人々による、世界遺産候補について考える会議でも、重要なテーマとして取り上げられている(二〇〇五年九月バヌアツで開催された国際会議)。

2010年に登録された世界遺産

文化遺産

- ◇ツライフの要塞(サウジアラビア)
- ◇オーストラリアの囚人遺跡群(オーストラリア)
- ◇ビキニ環礁(マーシャル)
- ◇エル・カミーノ・レアル・デ・テイエラ(メキシコ)
- ◇タンロン遺跡(ベトナム)
- ◇アルビの司教都市(フランス)
- ◇丹霞山の歴史建造物群(中国)
- ◇河回村と良洞村の歴史集落(韓国)
- ◇オアハカ溪谷

- のヤグルとミトラの洞窟(メキシコ)
- ◇サラズムの原始居住域(タジキスタン)
- ◇サンクリストーブンのサンフランシスコ広場(ブラジル)
- ◇アムステルダム運河網(オランダ)
- ◇アルダビルのシヤイフ・サファイアッディーン廟とアンサンブル神殿(イラン)
- ◇タプリーズの複

複合遺産

- ◇パバナウモクアケア海洋国家遺産(アメリカ)

- 合バザール(イラン)
- ◇ジャイプールのジャンタルマントル(インド)
- 自然遺産
- ◇スリランカ中央高地(スリランカ)
- ◇丹霞山(中国)
- ◇フェニックス諸島保護地域(キリバス)
- ◇レユニオン島(フランス)
- ◇プラトナ山地(ロシア)

第五福竜丸に寄せて

—戦争の記憶を次の世代に語りたい—

東京都地域婦人団体連盟会長 川島霞子

人にはそれぞれ歴史があるように、その船にも過酷な運命がありました。一九五四年三月一日午前四時一二分、日本からはるかに遠い太平洋マシーナル諸島ビキニ環礁において、第五福竜丸はマグロ漁の操業中、米国の水爆実験に遭遇し、船はもちろん乗組員二三人全員が死の灰を浴びました。

船と共に乗組員全員の方々が、その運命を狂わされた理



あいさつする川島会長

不尽さは、筆舌に尽くしがた

い許しがたいことでした。それが戦争もとうに終わって、その傷跡も世の中から徐々に癒えてきていた時であること、を思うと、米国の行為、巨大な核実験は一層許しがたいこととありました。乗組員お一人ごとの命の重みと共に、第五福竜丸の運命の変転は、まさに社会に何かを語り、訴えている、としか思えません。

市民の平和への願いの証として

死の灰を浴び、積み込んでいたマグロもすべて廃棄され、その後の様々な流転を経てやがて廃船、果ては東京湾のごみ捨て場の汚濁の中にうずもれてしまった第五福竜丸、船の運命はもうここで終わり、いずれチリとなってその終焉を迎えるのが普通の成り行きであったと思います。しかし

不思議なことにそこからまた、新しい物語が始まりました。

第五福竜丸は志ある人々に救い出され、世界の平和と核兵器廃絶の思いの中でよみがえり、現在の姿となって展示されました。そして人々の平和への願いのシンボルとなりました。船の傍らに立つと第五福竜丸が平和と核廃絶を強く私共に訴えかけているのが感じられ胸を打たれます。

原水爆禁止のおもい深く

東京地婦連常任参与を務めた田中里子さんは第五福竜丸の救出から展示まで深く関わった方でした。一九七八年の第一回国連軍縮特別総会に参加、各国代表を前に被爆国の代表として「父をかえせ、母をかえせ」とあの有名な峠三吉の詩を、怒りと悲しみの中で読み上げ、世界中の人々に核兵器の恐ろしさ悲惨さをアピールした方です。

彼女の発案で第五福竜丸展示館のかたわらに八重紅大島桜を「21世紀は平和の世紀へ」と記念樹を植え、私共地婦連会員はもとより、友好団体のみなさまと一緒に、毎年四月

戦争を語りつぐ

あなたに伝えたい私の戦争体験 女たちの戦争体験

東京地婦連は、二〇〇八年に創立六〇周年をむかえました。そして、これまでの平和



の取り組みをさらに継承し発展させようと、会員によびかけて、戦争体験の記録を中心にした体験文を募集しました。これには二三人が手記を寄せ文集が編纂されました。また七名の映像証言によるDVD(40分)が制作され、体験文集とDVDのセットでお頒けしています。問合せは東京地婦連まで。

第一日曜日に「お花見平和のつどい」をしております。満開の桜を見ると田中里子さんが、あの温顔でやさしく、しかし強く平和への想いを語っている姿が見える様でした。

東京地婦連は二〇一〇年秋に、戦争を知る世代から若い人への遺書ともいえるべき、「戦争を語りつぐ」DVDと体験文集を制作いたしました。

軍人ではなく普通に市井に暮らしていた人々が、戦争によってどんなに運命を狂わされ、ひどい目にあったか、若い人たちに解ってほしい思いで作

りました。是非、活用してください。

現在、国際情勢もとかく波風が立ち騒いでいますが、「平和憲法」を持っているこの国が、とるべき外交政策はどうあるべきか?を施政者は考えて慎重に対処してもらいたいと存じております。

第五福竜丸の無言の訴えが、これからの若い人たちの胸にひびき「平和」への働きかけが永遠に続いてほしいと切望しております。

(かわしま かすみこ/東京地婦連)

ひろがりつながる希望

第五福竜丸での演奏から

寺嶋陸也



被爆ピアノのコンサートで寺嶋さん

コンサートホールのように音楽を聴くために作られた場所ではない会場、たとえば博物館や美術館のロビーや展示室、教会、お寺、学校の体育館、

広場や公園などで演奏する機会に、私は非常に多く恵まれて来ました。そこでは音楽がほかのいろいろなことへと広がっていくさまを味わうことができるので、コンサートホールで音楽に集中するよりも、音楽の力がより一層強く感じられるように思います。なかでも、第五福竜丸展示館での演奏は、今までの多くの経験のなかでも、ひときわ感概深いものがありました。

平和への航海とともに

第五福竜丸展示館で、私は今までに四回、ピアノを演奏する機会をいただきました。林光さんと一緒に三回、そのうち二回は日本フィルハーモニー交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏団とともに、あとの一回は東京混声合唱団との共演でした。林光さんは私の師匠（レッスンを受けたことではないものの、いつもそばで仕事を眺め、また、私の仕事もたくさん見ていただいていた）ですからもちろん、日フィル、東混のどちらも私が二十代のころから何度となく一緒に演奏させていただいた



日フィル・メンバーとラッキードラゴン・クインテットの演奏

た方たちなので、自身の音楽家としての成長ぶりや生きざまを試されるような気持ちでした。そして、もう一回の演奏は、昨年の一、広島で被爆したピアノを弾く、という演奏会でした。

船と被爆ピアノの会話からひろがる

被爆ピアノを弾いたこのときの印象は強烈でした。第五福竜丸展示館ということを考えて、シヨパンやラヴェルの海や船に関わる曲や、ここでは必ず演奏している宮澤賢治の「星めぐりの歌」（この歌

は、宮澤賢治の思想を象徴する、平和を祈る歌だと思っております）や沖縄の民謡によるピアノ曲などを演奏したのですが、同じく被爆の過去をもつ第五福竜丸の船腹にびたりと寄せられたピアノの音が、船と深く響き合って、あたかもピアノと船が会話をしているように感じられました。そしてそれは、楽器や船といった、生き物ではないものも記憶を持ち、魂がある、と確信した瞬間でもありました。

私はすでに「不惑」を過ぎて六年にもなるうかという年齢ですが、大げさにいえば、音楽家として生きることとはどういうことなのか、いやでも考えざるを得ない状況がそこにはあり、第五福竜丸と被爆ピアノとは、その答えの一部を示してくれているように感じました。

このことは、敗戦六五年の年に、第五福竜丸展示館での演奏以外にも、戦争の記憶を呼び起こし平和を祈る演奏会へ出演したり、そういったテーマの作曲を手がけたり、私の住む大和市（米軍の基地や飛行場がすぐ近くにあり、戦

闘機の騒音に日夜悩まされている地域です）で、いまいちど被爆ピアノを弾く機会があったりしたこととも、それは繋がっているのでしょうか。あくまで私個人のことではあります。

音楽、あるいは芸術というものにはどんな力があるのでしょうか。すぐに戦争をやめさせたり、核兵器を廃絶させる力はもちろん持っています。しかし、音にもやはり魂があり、傷ついた魂を慰め、人々の勇気を奮い起す力は持っています。また第五福竜丸とともに、そういった力に満ちた音楽を奏でたいと思います。（てらしま りくや/ピアニスト・作曲家）

◇コンサート情報◇

寺嶋陸也ピアノリサイタル

- 2011年2月8日（火）19時
- 東京文化会館小ホール
- 曲目＝ベートーヴェン・ピアノソナタ第32番、バルトークのピアノソナタ、林光・ピアノソナタ第2番、第3番

福竜丸を伝えて 一〇年目を迎えたボランテニアの会

遠藤昌樹

第五福竜丸展示館ボランテニアの会が二〇一〇年四月に産声をあげ、メンバーを増やしながら活動をつづけて、この春で一〇年目に入ります。

ビキニ事件から遠く隔たり、第五福竜丸を知らない世代が多数を占めるも、船の実物が保存され、これを活かして伝えると取り組みをつくるのが課題になっていました。年間四〇〇校以上訪れる小中高生に直接語り掛ける活動を、ということで、四〇数



年前に船の保存に携わった江東区の元教員に、ボランテニアの会の結成について相談と要請が第五福竜丸平和協会からありました。

第五福竜丸を伝える

ボランテニアの活動は来館者への説明（「展示館からのお話」と呼んでいる）、市民グループへの説明（年一〇〇団体を超える）、ミュージアムショップでの資料販売、夏休み子どもイベント（牛乳パックで作る第五福竜丸の工作）、平和絵本の読み聞かせ会、中高生の夏休み課題への対応、大学生のレポート作成の相談など常に新しい出会いがあります。

一〇年近い活動とは、思われりピータとの再会もあります。小学生のときに自由研究で第五福竜丸を取り上げたお父さんに連れられた小学生は、立派な紙芝居を作り学校



で発表。レポートの課題で訪れた大学生は、「八年ほど前に小学校の見学で来てボランテニアさんのお話を聞きました。そのとき大切な船なんだとおもいました。きょう改めて船を見て話を聞いて、胸に沁みてる感じがです」と嬉しい感想を寄せてくれました。

学習や研修旅行も

私たちは、年に二、三回学習会をもち、皆でテーマを決めて研修旅行も行ないます。

昨年は、一〇月三十一日に千葉県佐倉の国立歴史民俗博物館に行きました。

台風接近という空模様を心配しながら集合。総勢一二名は徒歩で京成佐倉駅から歴博

へ向かいました。

この日のお目当ては、三月に公開された現代史の展示コーナーです。国立の博物館としては初めて「現代」を制作展示しました。その意義や、そのなかでビキニ事件がどのように位置づけられているかなどに注目しながら見学しました。

展示は、一九三一年の〈満州事変〉から敗戦までの「戦争の時代」から始まり、歴博のある佐倉城址にあった陸軍佐倉連隊の歴史を中心に構成されています。つづいての戦後は「占領の時代」「高度経済成長の時代」と、庶民文化や生活をたどりながらの構成となっていました。



第五福竜丸については戦争の時代の最後の「原爆投下」につづいて写真と説明があり、これには核の被害にしても時代が隔たっており違和感を感じました。

「現代」のコーナーでの福竜丸は、航路図や読売新聞、マッシュル住民の写真などで見せるようになっていました。そのメインはゴジラの着ぐるみ人形の展示でした。

被害の実態を示す資料や日本の漁業と国民生活への深刻な影響を示すもの、核廃絶に向けての声のひろがり、原水禁運動の出发点としての資料なども展示してほしいと感じられ、もう少しこの事件を掘り下げて欲しかったという思いが残りました。

そう言えば、戦争の時代の中に、沖縄の住民の集団自決問題、「従軍慰安婦」問題は触れられていませんでした。昼食後は佐倉城址公園のなかの戦争遺跡、佐倉連隊の兵士たちの生活や訓練の様子を示す設備跡や、佐倉城の遺跡などを歩きました。

（えんどう まさき／ボランテニアの会世話人）

連載⑥

晴れた日に
雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

前号に「幾度も水没しかけた」第五福竜丸の写真が掲載されています(7面)。水没のその都度、地元江東区で働く労働者のみなさんや市民のみなさんが、懸命に浮上に取り組みました。報道機関も水没の状況を報道。「福竜丸水没の危機」の見出しを掲げた記事は、保存運動の足踏み状態にたいし、ときに苦言を含みながらも、側面から保存運動を後押しするものでした。

前号でふれたように、七〇年末から七一年にかけて保存委員会の運営に困難な状況が生まれました。その困難打開を促した一つが「船の水没」でした。梅雨期七月の集中豪雨による水没は深刻なものでし

た。水位が上がればまさに「沈没」でした。緊急の対応が必要でした。東京都港湾局の協力も受け浮上工事が行われましたが、船体の陸上への固定が急がれました。「水没」の事態は、「媒体」文言をめぐる四角四面の口角の沫を洗うに十分でした。

こんな話があります。「水没した福竜丸、保存運動を走らす」というものです。福竜丸はまさに「不死鳥」のように道筋を先導したのでした。

もう一つの、運動沈滞を決定的に変えたのは、七一年四月一日、東京都知事に美濃部亮吉さんが再選を果たしたことです。美濃部さんは選挙公約に第五福竜丸の保存推進を掲げていました。得票数は



協会の会合に出席、挨拶する美濃部知事・75年5月

三六一万五二九九票、これは都知事選の史上最高です。「ストッブ・ザ・サトウ」の合言葉でたたかわれた選挙、時の佐藤首相が進める対米依存、「沖繩返還協定」交渉などに対し、「核も基地もない沖繩」を掲げる運動と世論の高まりの中で「全国的革新」の要求を結んだものでした。大阪では黒田一氏が当選、京都では嵯川府政が継続していました。

美濃部さんは、第五福竜丸保存運動の呼びかけ人参加にあたっては個人の資格を強調されてきました。しかし、福竜丸保存推進の公約を掲げ当選した美濃部さんは都知事として公約を実行する位置に置かれたのです。多くの市民は保存実現を確信し、運動は明るさをとりもどします。

*

前号でも紹介した『ピキニ水爆被災資料集』掲載の「保存運動」の項目には、「美濃部氏は再選されても、保存運動がそのまま放置されたのでは知事の公約に反するだけでなく、江東区などの選挙民に申し訳ないのでないかという指摘が起こり、保存運動の再

開を求める声がつよくなった」と書かれています。

六月一日の保存委員会第五回常任委員会は、「運動の推進について、昨春秋いらい運動に停滞のあったことを反省し、あくまで当初のよびかけの趣旨に立脚して、当面の運動を推進することを確認」し、委員会の日常執行体制の強化をはかるために、神崎清、広田重道両氏を専務理事に選出します。神崎さんは大逆事件を究明した大作『革命伝説』の著作を持ち、戦後、売春問題に取り組みりベラルな評論で知られています。米軍基地周辺の女性、子どもたちを守る活動などで広田さんとのつながりがありました。七月末には保存委員会事務局が都労連のなかに置かれ、転機となることは前にふれました。

美濃部知事は再選後、都政執行の重要部局、企画調整局局長に都立大学教授の柴田徳衛さん(財政学・都市政策)を招聘します。企画調整局は各部局に担当業務を振り分ける役どころでした。「第五福竜丸」事案は、企画調整局調整部が関連局担当部との連絡を

行うことになりました。

都の体制も整い、保存場所の確定もすすむなかで保存委員会は、美濃部公約実現を後押しする世論喚起と保存募金運動の取り組みをつよめていくことになりました。

*

「安江さんが岩波に帰ることになるので、大内さんのお声もあり」—企画調整局長を引き受けた折の事を、柴田さんが第五福竜丸平和協会役員懇談会で話されたことがあります。安江さんは、美濃部都政を支えるために、請われて岩波書店編集部から知事特別秘書に就かれた安江良介さん。大内さんとは、ご承知の大内兵衛さんです。

柴田さんは七四年東京都公害研究所(現環境科学研究所)初代所長、都理事を歴任し七九年退任。八〇年東京経済大学教授。八九年から第五福竜丸平和協会評議員、現在は顧問にむかえられています。(やまむら しげお/第五福竜丸平和協会顧問)

【訂正・連載④下段の、保存委員会発行パンフの発行日、七四年四月を七〇年四月と訂正します】



第五福竜丸元乗組員・大石又七さんの展示館での証言は昨年20回に及びました。今年は『ビキニ事件の真実』がハワイ大学より英訳出版される予定。現在新たな手記も執筆中です。写真は大学生の授業で証言する大石さん。

焼津平和記念シンポジウム

11月17日、第一回焼津平和賞記念シンポジウムが、焼津文化会館で開催され、安田和也事務局長が「第五福竜丸は語るー保存・現在・今後」と題して講演しました。また賞選考委員らとともに「いかに記憶を継承するか」とのテーマでパネルディスカッションに参加しました。

受賞の影響もあり、今年は静岡県内からの修学旅行が微増、焼津市内からも多くの方が訪れています。

焼津市主催の「6・30集会」に参加した焼津市立黒石小学校は、修学旅行で展示館を訪れ、第五福竜丸元乗組員・大石又七さんのお話を聞きました。12月に開かれた学習発表会では、貸出パネルを使って展示、発表しました。保護者や地域の方たちも来校し、「焼津の第五福竜丸事件」について考える機会となったとおたよりをいただきました。

都庁で原爆展

11月27日から12月1日まで、東京都庁展望室で東京原爆展が開催され、協会が広島平和記念資料館より借りうけている「原爆瓦」等の資料を出張展示しました。原爆展は東京都原爆被害者団体協議会（東友会）の主催で3回目です。日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、今年5月NPT再検討会議に合わせて国連本部で展示したパネルを中心に、

現物資料10数点も展示されました。観光スポットでもある会場には、国内外から観光客をはじめたくさんの方が訪れました。

平和のための博物館 市民ネットワーク全国交流会

12月4日～5日、山梨県甲府市で平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会が開催されました。安田事務局長が参加し、若い世代への継承、展示・研究内容の充実、博物館と地域・市民との連帯をテーマに、各地での取り組みの経験交流をしました。

丸木美術館で福竜丸展

2月26日から4月9日まで、原爆の図・丸木美術館（埼玉県東松山市）で「第五福竜丸 ベン・シャーンと丸木夫妻展」が開催されます。

この企画展は丸木夫妻の原爆の図第9部「焼津」、第10部「署名」とベン・シャーンの「ラッキー・ドラゴン・シリーズ」などが展示されます。協会からは、所蔵のベン・シャーンの素描7点と、ビキニ事件の概要を伝える写真パネルのほか、現物資料を出品します。会期中、3月5日と26日には記念講演会が予定されています。

船体の環境モニタリング

筑波大学世界遺産専攻の松井敏也准教授のご協力で、6月より船体上部と来

館者エリアで温室度計測モニターをおこなっています。空調のなかった11月までの計測結果からは、船体上部の温度変動が激しいことがわかりました。モニターは現在も継続中です。

タコノキ標本展示

特別展「イケナイ世界遺産」にあわせ、夢の島熱帯植物館から提供されたタコノキの果の標本を展示しています。ビキニ環礁のんびりが移住させられているキリ島などでは、タコノキの繊維をつかった民芸品が貴重な現金収入源として作られています。また食用としても重用されている植物です。



展示館空調工事完了

一昨年からの不調だった展示館の空調設備が一新されました。開館しながらの工事だったため、騒音・床の段差など来館者にご不便をおかけしましたが、久しぶりに冷蔵庫のような冬の展示館から解放されます。

2011年3・1ビキニ記念のつどい 市民講座 ＜世界遺産＞ビキニから拡がる死の灰

2月26日（土）午後2時より

会場・東京スポーツ文化館（BumB）＝夢の島公園内

証言・大石又七（元第五福竜丸乗組員）

講演・豊崎博光（フォト・ジャーナリスト）

ビキニ水爆実験等の新資料をもとに、世界規模の汚染の実態を考える

資料代 500円

午後1時から展示館の見学会も開催します。ぜひご参加ください。